

幸福を、平和を、豊かな心を、カンボジアの友と分かち合おう

Angkor Wat

アンコールワット

発行日:2018年(平成30年)3月1日 《年6回・奇数月発行》

会報 第99号

特定非営利活動法人(NPO法人)

21世紀のカンボジアを支援する会

《AAC21》ASSOCIATION OF AID FOR CAMBODIA IN 21 CENTURY

【東京本部】〒176-0011 東京都練馬区豊玉上2-25-7-203
TEL:03-3991-2854 FAX:03-3557-1213
E-mail:info@aac21.net【カンボジア事務所】Phon Preytea, Sangkat Chaom Chao,Khan Por Senchy
Khan Por Senchy,(Borey Newtown) Phnom Penh
(855) 78-784-808 (855) 17-599-707

【ホームページ】AAC21 検索

【公式ブログ】メコンの風に吹かれて 検索

【Facebook】https://www.facebook.com/aac21.net 検索

「味の素労働組合」と「味の素グループ労働組合」の
協力で新校舎が完成

「味の素労働組合」及び「味の素グループ労働組合」の資金協力により建設中だった新校舎(トウボンクモム県、クリアウ小学校:生徒数1165人)が完成、1月28日、カンボジア政府主催の贈呈式が行われた。

同組合のメンバーや「カンボジア味の素」(プノンペン市内)の社員ら約30人が出席、カンボジア政府からは、シアン・ブン・レン内務省副長官ら多数の要人が出席、地元からも村人や生徒ら約500人が出席した。

本会からは、根岸理事長始め3人の役員らが出席した。校舎が完成したクリアウ小学校は、プノンペン市内から約4時間かかる遠方であり、当日は朝5時にプノンペ



あいさつする井ノ口中央執行副委員長



完成した新校舎

ンを出発、午前9時から贈呈式が行われた。式典では、寄贈者を代表して井ノ口照将さん(味の素労働組合中央執行副委員長)があいさつに立ち、生徒たちにエールを送った。終了後、同組合から生徒たちに学用品が、「カンボジア味の素」から味の素製品が贈られた。新校舎は4教室、レンガブロック造りの平屋建て。工事開始により旧木造校舎が壊されたため、生徒たちは昨年末から新校舎で授業を受けていた。

武藤滋先生が逝去



昨年12月22日、武藤滋先生(静岡県沼津市、里親会員)が病気で亡くなった。92歳だった。

武藤先生は本会設立当初からの支援者で、2003年には、本会として第一号の小学校校舎を2棟、カンボジアに寄贈してくれた。

また現地活動にと、2004年にトヨタ製ピックアップカー(新車)を寄贈、活動の定着化に多大な寄与してくれた。元気な頃はカンボジアを度々訪問し、子どもたちを励ましてくれた。

武藤先生は、医学部を卒業後勤務医を経て沼津市内に「武藤胃腸外科病院」を開院、沼津では知らない人がいない程有名な外科医だった。

第一線を退いた晩年は市内の自宅で余生を過ごしていた。

自分が死んでも子どもたちが困らないようにと、10人もの里子への支援金を先払いしてくれるなど、配慮の行き届いた素晴らしい人格者だった。

心からご冥福をお祈りいたします。

日野原先生の生き方に学ぶ

NPO法人21世紀のカンボジアを支援する会 理事長 根岸 恒次

貢献をされた方である。

日野原先生の人生において忘れてならないのが、1970年に起きた「日航よど号ハイジャック事件」に遭遇したことである。赤軍派が起こしたわが国初のハイ

昨年7月、医学博士で聖路加国際病院名誉院長の日野原重明先生が亡くなった。105歳だった。

日野原先生の功績については言うまでもなく、戦前・戦後を通じて、日本の医療の前進に多大な

ジャック事件だ。たまたま乗客として乗り合わせ、3日間機内で不安な日々を過ごされた。

運よく解放されたが、先生は著作の中で「あの時私は一度死んだ。その後の人生は余録のような

もの。これからは人のために尽し人生を全うしたい」と話している。

日野原先生には足元にも及ばないが、私も似たような経験をしたことがある。カンボジアの支援

活動を始めた頃の1997年7月、政権の奪い合いで当時の2大政党が武力衝突した。私はたまたまプノンペン市内で活動していたが、紛争に巻き込まれて約1週間、ホテルに軟禁状態にされた。空港も閉鎖され日本に戻れず不安な日々を過ごしたことも、今では懐かしい思い出だ。

辛い衝突が収束し無事に帰国できたが、「もう何があっても恐くない。一度死んだつもりで支援活動に力を注ぎたい」と思った。

あれから21年が経ちカンボジアは大きく変わった。政情は相変わらず不安定だが、高度な経済成長を実現し、国民の暮らしも当時

に比べると格段にレベルアップした。

しかし、支援活動が必要としている貧農地帯も沢山残されていて、カンボジアに来るともっぱら地方巡業の日々である。

一粒の麦は地に落ちて死ねばたくさんの実を結ぶ(新約聖書)



校舎贈呈式であいさつする

カンボジアの子どもたちをサポートしてください



里親さん、ありがとう

クメール教育里親会員募集

長かった内戦が終わって平和になったカンボジアですが、国の復興はなかなか進まず、多くの人は貧困に苦しんでいます。特に農村では、貧しかったり親を亡くしたりして学校へすら行けない子どもや、学校へ行けても途中でやめしてしまう子どもが後を断ちません。

本会では、農村の子どもたちが学校へ行けるようにと、教育資金をサポートしてくれる里親さんを募集しております。

思えば72年前、敗戦して焦土となった日本を救ってくれたのは、諸外国からの援助でした。カンボジアも食料援助をしてくれました。日本の子どもたちもその恩恵を受け学校に行けるようになりました。豊かになった私たちが、今度は困っているアジアの子どもたちを支援する番です。

※お友達グループや職場など、グループ単位でサポートしていただくこともできます。

【年会費】: 子ども1人につき、1年間3万円。一括納入、分割納入(毎月、年3回、年2回)のどちらでも可。所定の郵便振替用紙を使ってお振込みください。

【会費の使途】: 年会費の42%は、米ドルに両替して2ヶ月に一度、直接里子に届けております。年会費の58%が、夢ホームで暮らす子どもたちの生活費及び運営費、里子をケアして下さる各学校への謝礼金、現地スタッフの給料・ガソリン代・事務所家賃・車の整備代など現地でかかる経費、通信費・印刷費・人件費など東京の本部でかかる経費として使われます。

【サポート期間】: 最低1年間単位ですが、少なくとも里子が学校を卒業するまでの期間、サポートしていただけたら幸いです。里子からは概ね6ヶ月に一度、近況を報せる手紙(日本語に翻訳)と写真が届きます。

【里子との交流】: 里親さんからの手紙、プレゼントも里子に届けることができ、心あたたまる交流ができます。(お礼状と写真が届きます)

本会は皆様からの寄付金のみで活動しているNPO法人であり、現在公的資金(税金)はいただいておりません。

遠藤 啓さんに

11月15日～30日、遠藤啓さん(静岡県伊豆の国市、会員)がカンボジアを訪問、小学校を訪問して生徒たちの集合写真を撮り、数日後に再訪問し、写真を届けた。

遠藤さんは、15年間カンボジアの小学校で集合写真を撮り続けてきたが、その功績が認められ、この程カンボジア王国政府(教育省)から感謝状が贈られた。

1月28日、小学校贈呈式の席上、シアン・ブン・レン内務省副長官から、感謝状が渡された。

写真提供:遠藤 啓様



感謝状授与

児童養護施設
夢ホーム日記

カンボジアのコンポンスプー県にある児童養護施設「夢ホーム」は、両親や片親を亡くしたり、親がいても不遇な環境にある子どもたちの生活と教育の場として、会員の皆様のご厚意により2009年3月に開園しました。

現在11歳～18歳の男女12人が暮らし、近隣の小・中・高校に通学しています。

■ プノンペン市内のレストランで夕食

夢ホームのあるコンポンスプー県はプノンペン市内から約2時間かかるため、子どもたちはプノンペンに行く機会が殆どないが、この程夢ホームを訪問した稲吉忠さんが、子どもたちをプノンペン市内のレストランに招待してくれた。

久々に訪れるにぎやかな街、プノンペン市内の雰囲気を楽しんだ。

■ 成長する子どもたち

12人の子どもたちの学年は、高校生が2人、中学生が6人、小学生が4人。小さかった子どもたちは、あっという間に成長する。皆様のおかげで元気に暮らしている。



レストランで楽しい食事会

カンボジアの小学校に

2つの井戸が完成

1月16日、根谷崎百合子様寄贈の井戸贈呈式を、トゥボンクモム県内の小学校で行った。根岸理事長が根谷崎様に代わり式に出席した。

また1月20日、山辺健一様寄贈の井戸贈呈式を、タケオ県内の小学校で行った。寄贈してくれた山辺様も式に出席した。

3月は4つの小学校に井戸を寄贈する予定。



根谷崎さんが寄贈した井戸

山辺さんが寄贈した井戸



1月に完成した井戸の内訳

	寄贈者名	学校名	生徒数	所在地(県名)
1	根谷崎百合子様	プレイコムベーン小学校	341人	トゥボンクモム県
2	山辺健一様	プレイロムピアク小学校	137人	タケオ県

※通算の井戸設置数(2003年～):316基(1月現在)

ロマンソー小学校
校舎着工式に出席

1月22日、「世界の恵まれない地域に小学校を作る会」(新潟市秋葉区、石川幸夫代表)が新校舎を提供することになった「ロマンソー小学校」(コンポンスプー県オラル郡、生徒数1160人)で着工式が行われ、根岸理事長が出席した。工事はすでに開始され、5月11日に開校式を予定している。新校舎はレンガブロック造り平屋建て3教室。



仏教式で行われた着工式

「味の素労働組合」と「味の素グループ労働組合」
がカンボジア訪問

1月26日～30日、「味の素労働組合」と「味の素グループ労働組合」(東京都中央区京橋)のメンバー14名がカンボジアを訪問した。

訪問の目的は、寄贈した小学校校舎の贈呈式(1面に掲載)への出席がメインだが、同団体が20年前に校舎を3棟寄贈した小学校(ワットアン小学校:カンポット県、生徒数11470人)も訪問して生徒たちと交流、学用品と味の素製品を寄贈した。

同団体は毎年1月にカンボジアを訪問、本会と連携して校舎や遊具などを寄贈している。



⇒20年前に寄贈した小学校を訪問

佐々木さん親子が小学校訪問

1月18日～21日、佐々木テルさん(宮城県利府町、会員)と娘の土井裕美さん(京都市、会員)がカンボジアを訪問した。

19日には、佐々木さんが校舎を寄贈した「ソカールオン佐々木小学校」(生徒数1105人、コンボンチュナン県)を訪問して生徒たちと交流した。お菓子セットをプレゼントした。その後「夢ホーム」にも足を運び、子どもたちにお菓子セットをプレゼントした。



寄贈した小学校を訪問した佐々木さん

子どもたちの文集
第2集へ

1月24日～30日、石川桂副理事長(愛知県安城市、里親会員)がカンボジアを訪問した。

25日には「トロバントム石川小学校」を訪問、2集目となる文集作りに向け、生徒たちと話し合いの時を持った。



生徒たちに話す石川副理事長

稲吉忠さんが夢ホームと里子訪問

1月25日～29日、稲吉忠さん(三重県多気郡、里親会員)が夢ホームと里子を訪問した。

鈴木千雄さん(故人)の知り合いだった稲吉さんは、鈴木さんが急逝した後、鈴木さんが世話していた5人の里子を引き継いでくれ、毎年1月、夢ホームと里子訪問をしている。



里子を訪問した稲吉さん

ノップ・ヴィサールさんが婚約

本会のカンボジア人アドバイザーで、2年前から本会が主催するカンボジア語講座を担当しているノップ・ヴィサールさん(茨城県つくば市、筑波大学大学院生)がこの程、プノンペン市内で婚約式をあげた。

お相手の女性は、チェイ・チャンケツヤさん(プノンペン在住)。アーチスト兼古典舞踊の先生をしている。

結婚式は今年の11月、プノンペン市内で行うとのこと、おめでとうございませう!



婚約したノップ・ヴィサールさん(中央)

《夢ホーム》
第35回鑄造によるアクセサリー作り技術講習会

榎戸徹彦さん(横浜市、理事・里親会員)は隔月にカンボジアを訪問、夢ホームにある工房で、夢ホームや近所に住む子どもたちを対象に、アクセサリー作りの技術講習会を開催している。

第35回目の講習会を1月22日～24日に実施した。



介講習会の様子

テーマを持ち、製作に励んだ。次の講習会を3月下旬に予定している。

村の子どもたちに寄贈品を届けました

1月22日～23日、根岸理事長が里子プレゼントを届ける中で、日本から持参した寄贈品を村の子どもたちに配り、喜ばれた。

※届けた品物と寄贈者は次の通り
・飴とカードのセット(岩橋京子様)
・学用品(長谷川美津子様)
・学用品(あきやま眼科様)



飴を届けました

育児放棄の尻拭いではない

わが国でも、親の育児放棄や虐待が世間を騒がせている。しつけの一環と称し、わが子を死に至らしめる最悪のケースもある。

カンボジアは、そこまではないにしても、親の身勝手な行動が子どもを不幸にするケースがかなり多い気がする。

1月23日に訪問した教育里子、ボル・ミニアちゃん(9歳、小学2年生)は、産まれてすぐに両親がいなくなったそう。8歳の妹とともに、親戚の叔父さん夫婦のもとで暮らしていた。両親は未だに行方不明とか。育てられない事情があったのだろうか？

クメール教育里親基金は、育児放棄の尻拭いではないのだ。頑張っ生活していても、貧しい家庭環境から抜け出せない子どもたちが通学できるように設けた基金である。



両親が行方不明の姉妹

教育支援金を隔月に届けています

既報の通り、本会のカンボジア事務所では、教育里子を通う小学校を隔月に訪問、教育里親様から頂戴した里子への教育支援金を届けている。

中学校・高等学校に通う教育里子も、出身した小学校に集まってもらい、支援金を渡している。諸事情により当日来ることができなかった教育里子には、次回に4ヶ月分を渡している。

里子が教育支援金を受け取った印として、学校単位に受領ノートを作成し里子にサインしてもらっている。

なお今年から、隔月に18ドルの教育支援金を里子に渡している。(昨年度より1ドルアップ)

現地スタッフが支援金を届けました



本会は、病気や事故、親の離婚などにより両親や片親を失い、また両親がいても貧しい家庭環境にあるカンボジアの子どもたちが安心して学べるようにと、2003年に「クメール教育里親基金」を創設、現在約400人の貧しい子どもたちを教育支援している。



里子にプレゼントをとどけました

本会(記)と成長の記録となる写真を取りまとめ、2月から3月にかけて、成績表とともに順次、教育里親さんに郵送する予定。

クメール教育里親基金活動レポート

投稿

「Wish」から「Hope」へ

杉田 博

私は2年半程前から教育里親を務めさせていただいている。里親募集のチラシに掲載された或る女の子の眼差しを見たとき、「学校に行きたい」だけではない意志の強さを感じた。

入会時、里子は学業を続ける意思はあっても、経済的に難しい子供たちの中から選ばれていると聞いていた。そのとき私は、英語の「Hope」と「Wish」を思い出した。前者は「実現性の高い希望」、後者は「実現が困難な願望」を表現する際に用いられる。私はこの子の健気な「Wish」を「Hope」に変えてあげたいと思った。

ほどなくして支援と手紙のやりとりが始まった。里子はまめに手紙を書いてくれた。私もクメール語を勉強し、手紙を書いた。そして17年11月、会主催ふれあいの旅に最後の2日間だけ参加させていただき、最終日に里子を訪問した。

里子は手紙を用意して待っていてくれた。「ソク・サバーイ？」私が下手なクメール語で挨拶を交わすと、余程嬉しかったのだろう。あっという間に抱きつかれていた。

支援が役に立っているか、私は里子の顔を見るまで自信がなかった。しかし私の心配は杞憂だった。まず何より健康そう。そして「医者になりたい」と、真っ直ぐな意志を向けてくる里子に感動する。そこでようやく私は気づいた。「そうか。この子は支援を『Hope』にする努力をたくさん続けているんだな」。自分が気を揉むより手紙で励ましてあげる。会いに行き手を握ってあげる。どんな小さなコトでも里子の「Wish」が「Hope」になってくれればいい。私の役目はそれだけだ。

あと何年かしたら里子も立派な大人になるだろう。「I will!」。成長した里子がニコリ笑って私の目の前に立つ日が来ればいいと思いながら、帰りの飛行機の中で私は気持ちよく眠った。支援すると現地スタッフのご尽力に改めて感謝する次第である。

(さいたま市：里親会員)



里子を訪問した杉田さん

遠く離れた村の小学校を訪問

1月17日、アンコールワットのある街、シエムリアップから車で3時間以上かかる、プレアピヒア県内の小学校を訪問した。



床が土の木造校舎

世界遺産の一つ、コーケー遺跡からさらに1時間のところに、小さな小学校があった。(マレット小学校、生徒数140人)

マレットはカンボジア語で胡椒の意味。この一帯に胡椒畑が沢山ある。このように人里離れた地域に村があった。村人たちが作った校舎は古く、床は土のまま、壁板も隙間だらけである。いつ壊れてもおかしくない校舎だが、子どもたちは熱心に授業を聞いていた。

カンボジアには四季がなく、あるのは雨季と乾季だけ。雨季は農作業で多忙のため、乾季に当たる12月、4月に結婚式が集中するそう。カンボジアの結婚式は道路上で行われることが多い。葬式も道路上で行う。



カンボジアの結婚式の季節

軍の見張り番

プレアピヒア県の奥地に行った時、見張り番をしている人が見えたので、最初は防犯のためかと思いきや、その周辺に軍の駐屯地があることに気づき、そのための見張り役であることが分かった。

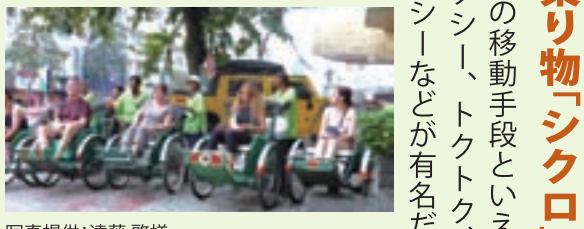
近年カンボジアは戦争がなく平和が続いているので、軍人たちがもやもや緊張感に欠けているように思えた。

欧米人に人気の「パプストリート」

アンコールワットで有名なシエムリアップはおしゃれな街である。特に「パプストリート」は毎晩多くの旅行者で賑わっている。バンド演奏なども行われ、欧米人に人気のスポット。

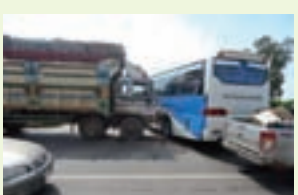
最近では中国や韓国からの旅行者も多く訪れていて、人種を超えて楽しめる街である。

レトロな乗り物「シクロ」



写真提供：遠藤 啓様

交通事故が多発



カンボジアの交通ルールはあってないようなもの、といえは言い過ぎか？歩行者優先が身につく日本人にとつて、とても危険な道路事情だ。

写真提供：遠藤 啓様

お坊様のボランティア



写真提供：遠藤 啓様

車を走行中、お坊様の集団が車に乗り、通行中の車をかきつけて水をかけていた。

聞くと、ドライバに安全運転を呼びかけるキャンペーンとのこと。お坊様のボランティア活動である。



写真提供：遠藤 啓様

乾季は結婚式の季節

ウォッチ

カンボジア

現地発行の情報誌やインターネット配信から、カンボジアのニュースを紹介します

カンボジアミニニュース

縫製業の最低賃金法案協議が終結

1月31日、縫製業の最低賃金法案協議が終結した。クメールタイムズ紙が報じた。

これにより、1月から縫製業、被服業及び製靴業に従事する労働者の月額最低賃金は170ドルとなった。

労働職業訓練省イット・ソムヘーン大臣は、「生活の基準の引き上げは雇用機会を創出し、労働者の生産性を向上させ、投資機会をさらに増やす」と述べた。

カンボジアアパレル労働者民主組合連合会長のワン・ソウ・イエン会長は、この法律の承認は、他の業種の最低賃金も引き上げるだろうと語った。

インターネット配信 カンボジアビジネスパートナーズより引用

10年の時を経て「ゴールドタワー42」の建設再開

2008年に建設が停止していた42階建ての高層ビル「ゴールドタワー42」の建設が、中国企業の手によって再開された。プノンペンポスト紙が報じた。

建物は、プノンペン市内のシアヌーク通りとモニボン通りの角にあり、5階建ての地下駐車場と、3階建てショッピングセンター、8階建てオフィス、29階建てのマンション部分で構成され、2019年末〜2020年初頭に建設終了予定だという。

インターネット配信 カンボジアビジネスパートナーズより引用

カンボジア7月の国民議会選挙 日本政府に支援継続を要請

カンボジア政府は、7月の総選挙に向けての支援を、日本政府に要請した。クメールタイムズ紙が報じた。

首相府で行われた中根一幸外務副大臣との会談でフン・セン首相は、7

月に開催される国民議会選挙のための財政支援の継続と、選挙監視のためのオブザーバー派遣を要請した。

最高裁判所の決定により解党されたカンボジア救国党(CNRP)に対する政府の最近の取り締まりを受け、米国や欧州連合(EU)がカンボジア国家選挙管理委員会(NEC)に対する資金援助を、全面的に停止すると発表した。

インターネット配信 カンボジアビジネスパートナーズより引用

初の日本観光展がプノンペンで開催

2017年11月11日〜12日、在カンボジア日本大使館と日本政府観光局による初の日本観光展が、プノンペンのイオンモールで開催された。

このイベントは、カンボジア人に日本の文化や観光名所を紹介、訪日旅行を推進することを目的としている。

カンボジアに進出している様々な日系企業、団体がブースを出していた。

日光江戸村による忍者ショーや、カンボジア在住の日本人による和太鼓が好評だった。

(ニョニウム2017年118号92号 ホットニュース48頁より引用)

競泳で東京オリンピックを目指す日本で行

2017年10月、競泳カンボジア代表の2選手が、日本で約2週間の強化練習を行った。2020年東京オリンピックを目指すカンボジア代表選手の中でも、特に年齢が若くて成長著しいということで選ばれた。2人とも日本は初めて。

過去に多くのメダリストを輩出した競泳大国日本で、はたして彼らはどんな経験を積んできたのだろうか。

(ニョニウム2017年118号92号 カンボジアスポーツ通信46頁より引用)

投稿

美しい瞳

今 紀子

Ｔ氏は、旅行会社を退職後、日本の里山自然ガイドをしている。正月のある朝、「シモバシラ」という氷の花を探して歩いていた時Ｔ氏が言った。

「今でもカンボジア行ってるの」

「はい、行くだけです」

「二十年前、仕事でカンボジアに行った時、日本人の青年僧に会ったんですよ」と彼は言った。二十年前といえば、ポルポト政権が収束し、カンボジアにもようやく平和の光が見え始めた頃だ。その青年僧は、現地の僧たちと一緒に、空しく散った霊を弔う行脚の旅に出るのだと言う。

何か「喜捨」を求められるかと思ったが、何も求めず美しい瞳でニコリ笑っただけだった。その時の白い歯が印象的で、忘れられないと言う。

そして、自分から何も「喜捨」できなかった事が、悔やまれてならないという。

そう語るＴ氏の瞳も美しかった。

あなたの優しい心を私が確かにカンボジアに届けましょう。それが私の「仕事」なのですから

(東京都渋谷区、会員)

活動に参加しませんか

クメール教育里親会員

農村の貧しい子どもたちが学校に行けるようにと教育資金をサポートしてくださる教育里親会員を募集しています。サポート金額は年間3万円(分割可)です。(年会費を含みます)

個人・団体会員として

・個人会員(月額5千円)
・団体会員(月額1万円)

寄付金

当会の活動に賛同いただける方からの寄付金も受付しております。

会費寄付金の送付は、銀行振込郵便振替、現金書留で。

【口座名】

21世紀のカンボジアを支援する会

【ゆうちょ銀行】

019支店 当座 01600916

【りそな銀行】

練馬支店 普通 4098235

●ゆうちょ銀行の自動引き落としをご希望の方は事務局へご連絡ください。

●会員の皆様には、隔月発行する本会の会報「アンコールワット」を発行の都度郵送します。

忘年会(会員懇親会)を開催

12月9日、恒例行事となった忘年会(会員懇親会)をサンアロハ・レストラン(横浜市中区)で開催、15人の会員さんが集った。特に、11月に行われた「第37回カンボジアふれあいの旅」に参加した会員さんが10人集い、写真交換するなど、旅の思い出に花が咲いた。



会場の前で記念撮影

写真展 ～笑顔のカンボジア～

撮影：遠藤 啓(主宰)



- ☺ 期 間 3月29日(木)～4月2日(月)
10時～17時(初日＝13時から・最終日＝14時まで)
- ☺ 会 場 しずぎんギャラリー「四季」 沼津市大手町 4-3-45
アゴラ沼津ビル8階(静岡銀行沼津支店ビル)
- ☺ 後 援 NPO21世紀のカンボジアを支援する会、その他
- ☺ 入場料 無料
- ☺ 問い合わせ 遠藤 啓氏
090(4150)8850

書き損じハガキ・未使用切手・商品券等をお送りくださいませ

本会では、書き損じハガキ・未使用の切手・ビールやデパートの商品券を集め、活動資金にしております。皆様の家に眠っているものがございましたら、ご協力くださいますよう、よろしくお願い致します。普通郵便で事務局へお送りください。



事務局便り

■今年も、お年玉募金に沢山のご協力くださり、誠にありがとうございます。まだ寄せられておりますので、次号の会報で集計報告させていただきます。

■初回となる「夢ホーム・里子訪問の旅」に、現在のところ約10名の会員様が参加予定です。旅の安全をお祈りください。

■本会報は次号で100号となります。創刊号は2000年7月1日でした。継続は力なり、これからも150号、200号目指してまいります！

3月～4月の予定

- 会報「アンコールワット」3月1日付第99号発行
- カンボジア夢ホーム・里子訪問の旅(3月8日～14日)
- 写真展「笑顔のカンボジア」(3月29日～4月2日・沼津市内)
- 第16回定期総会(3月31日・練馬文化センター)
- カンボジア大使館正月パーティー(4月15日予定・カンボジア大使館)